

透析病院における COVID-19 に対する診療継続計画(MCP)第1報

医療法人衆和会 長崎腎病院

○丸田麻莉絵 中村麻美 手島和代 植木秀一 津久田健太 佐藤泰崇 田中健 林田征俊 原田孝司
船越哲

【背景】

COVID-19 感染の拡大に備えて 2020 年 6 月より MCP 委員会を立ち上げた。各部門の主任を中心にして、検討・決定・周知・修正を速やかに反映できるシステムを目指した。

【目的】

COVID-19 感染期においても安定した透析治療の提供を継続させる。

【方法】

最大 40%のスタッフ減を想定し、透析スタッフおよび感染病床を確保するため、入院患者を 50%削減した。感染期の透析継続をシミュレーションし、職員の危機意識を高め、業務の無駄を省き施設機能の強化につなげる PDCA サイクルを開始した。病棟看護師への透析業務訓練のために、定期的なクロストレーニングとマニュアルを整備し、多くのスタッフの透析室勤務を可能とした。2020 年 12 月に COVID19 陽性者や濃厚接触者が実際に発生し、この時点より状況の変化に対応させるため OODA ループへ切り替え対応している。

【結果】

COVID-19 のエピソード期より MCP の準備を開始し、院内への周知とクロストレーニングを行うことにより、陽性者・濃厚接触者発生時には円滑に対応できた。